

大雨に伴う農作物等の管理対策

1 水稲

【事前対策】

用排水路を点検し、ほ場の浸水(ほ場に水が入り込む)・冠水(背の高さほぼ全体が浸かる)を防止する。

【事後対策】

- (1)大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
- (2)浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (3)浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病害の発生が予想されるので、病害の早期発見・防除に努める。特に白葉枯病やいもち病に注意する。
- (4)浸・冠水後に葉色が上昇する場合があります、害虫(アワヨトウ、イネツトムシ等)の発生が予想されるので、害虫の早期発見・防除に努める。
- (5)浸・冠水したほ場は、不稔籾、穂発芽等が発生しやすいため、刈り遅れを防止し、被害ほ場は別乾燥にするなど、丁寧な乾燥調製を行う。
- (6)特に、2日を超えて浸・冠水した場合は収量への影響・被害が増加するため上記に注意する。

2 大豆

【事前対策】

明きょや排水口等の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。暗渠を開栓する。

【事後対策】

- (1)浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (2)湿害による病害の発生が予想されるため、殺菌剤の防除回数を増やし、1回目の殺菌剤と別の剤を使用する。紫斑病に関しては開花期4週目を基本に、開花期3週目または5週目に防除を追加する。
- (3)浸・冠水時に開花期を迎えていた場合、1番花が落下し2番花が発生する可能性があり、その場合は空莢や充実不足、青立ちの増加が予想されるため、収穫時に注意する。

3 園芸共通

【事前対策】

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と明きょ・暗きょの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。

【事後対策】

- (1)浸・冠水したほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかな排水に努める。
- (2)マルチ栽培では一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。
- (3)倒伏した株は早急に起こし、茎、果実、花穂等の曲がりを防止する。
- (4)浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。
- (5)病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。